

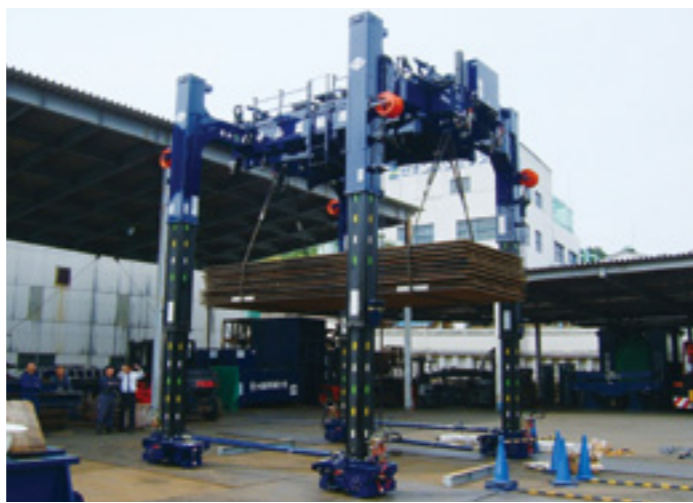
生産設備を安全に運び、現場で精度を作り上げる。 豊富な設備力と輸送力、工事力が企業を支える。

近畿圏トップクラスの設備力が強みを発揮する

中山運輸機工本社前の車両ヤードの光景は壮観だ。台車部だけで32輪ものタイヤを装備した8軸台車を筆頭に巨大なトレーラーがずらりと並び、いずれも、高が高く重い大型機械を運べるように台車部を低めに設計した低床タイプだ。

重機に目を転じると、大型レッカーやフォークリフトがひしめく中で、近畿圏最大の保有数を誇るスーパーリフターが目を見張る。伸縮可能な門型ブームで重量物を吊り上げる油圧式の揚重機械だ。創業者である中山豊治郎氏の提案により重機メーカーとの共同開発が実現したこのリフターは、コンパクトに分解して現場へ持ち込めるという強みがあり、クレーンを使えないような場所でも大きな力を発揮する。

「重機・車両共にこれほど豊富な車種と台数を有する事業者となると、県内では当社のみ。近畿圏内でも珍しい存在だろう」と、中末田里志社長は胸を張る。同社の主力事業は機械据え付



新型「60トン走行リフター」。コンパクトにたためて15トントラックで運搬できる

従来よりもコストを抑えることができるうえ、狭い場所や埋め立て地など足場が不安定な場所での作業を自在にする。新兵器だ。

メーカーへ社員を派遣し、機器に精通した人材を育成

しかし、設備力だけが同社の強みではない。全日本トラック協会の定期的な適性検査をクリアし、徹底した安全教育を受けた「輸送部」ドライバーの高度な運転技術とプロ意識。据え付けだけでなく、稼働後の生産性に関わる「機械の精度」まで作り込む「工事部」スタッフの経験と技術。これらこそ、国内を代表するメーカーから信頼される理由に違いない。

け工事、とりわけ多く扱うのが自動車部品や車体の成型加工等に使われるプレス機だ。メーカーから販売先への運搬はもちろん、据え付け工事や試運転、調整やメンテナンスなどのアフターフォローまで、同社が一貫して手掛けている。

自動車関連のサプライヤーに大型プレス機などを搬入し設置

このような業態であるため、大手自動車メーカーのサプライヤーが集まる愛知県周辺や大阪へトレーラーを走らせることが多い。大分県中津市に支社を構えているのも、自動車メーカーの工場や自動車関連サプライヤーが集積しているからだ。

「創業者がトラック1台で設立したのが1977年。当初から運搬から据え付けまでの一貫サービスを目指し、高性能な重機を次々に導入することで、近畿圏トップクラスの設備力を実現できた。重機をレンタルする必要があるため、競合入札でも他社より有利な金額を提示できる。また、特殊な設備を保有している点を買われて仕事を依頼されることもある」と中末田社長。



ガスタンクなどの大型輸送を担う「8軸台車」

小さな建物ほどの大きさの1千トンプレス機の据え付け工事では、7人がかりで半月を費やす。プレス機を分割して搬入し、5日かけて粗組みした後、デッキ等の組み付けをして仕上げている。この作業で特に重要となるポイントは、プレス機の構造にスタッフがいかにか精通しているかだ。工事の経験の豊富さが求められるうえ、次々と登場する最新モデルにも対応していかなければならない。さらにメーカーの海外進出に伴い、現場で監督ができるような人材がメーカー内で不足するという問題も発生している。そこで同社は、メーカーの工場へスタッフを派遣して製作に加わらせることで、プレス機の構造に精通し、新しいモデルにも即座に対応できる人材の育成に



「スーパーリフター」による1万2千トンプレス材の据え付け工事

設備導入に関しては、現在も熱心に取り組んでいる。その一例が、遠隔操作を可能にした新型「60トン走行リフター」だ。ディーゼルエンジンを搭載しているため、電源設備やレールは不要。

乗り出した。「現在、据え付け工事の現場監督はメーカーの管理者が行っているが、その役割を当社スタッフが担えるようになるだろう。依頼主の負担を軽減し、質の高い工事を実現することが可能だ」と中末田社長。

現場の事故を根絶するため意識を高め、研修を重ねる

重量物を扱うだけに、安全への配慮にも最大限の注意を払っている。「私たちの仕事で技術力を求められるのは当然のこと。技術力が高くて、事故が発生すればたちまち信用を失う。安全対策を何重にも施し、事故を起こさない態勢づくりと社員の意識向上の徹底が重要だ」と、中末田社長は語る。全てのスタッフが工事の全体を把握するために、毎朝工事の工程を全員で打ち合わせるほか、部門ごとの安全会議や実際の事故事例を学ぶ危険予知ミーティングなどの研修を日常的に実施している。このような研修の継続により、作業員の転倒など事故の根絶に取り組み姿勢も、依頼主から高く評価されている。一方、自動車生産業界ではグローバル化に伴い、工場の海外移転が増えている。海外拠点を持たない同社は生産設備を港へと運ぶ役割も担っているが、今後は新たな展開を迫られるだろう。「昨今では、アジア等海外での据え付け工事や、医療機器や航空機など付加価値の高い分野からの依頼も入ってきている。こういった事業の実績をさらに積み、強みを生かせる分野を拡大していきたい」と中末田社長は夢を語る。

Voice 代表取締役社長 中末田 里志氏

生産設備の運輸・据え付け工事を通じて、多様なものづくりを支えます。
プレス機や半導体生産設備等で蓄えた経験を生かし、
医療機器や航空機分野への展開にも着手。
優れた設備力と技術力で新しい分野にも挑みます。



Profile 中山運輸機工株式会社

<http://www.nakayamaunyukiko.co.jp/>



- 本社/大津市石居1-7-17
- 設立/1977年
- 資本金/4,800万円
- 従業員数/80名
- 事業内容/機械器具設置工事、一般貨物自動車運送